

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 <b>環境</b> コスト 品質 <span style="color: red;">（該当分類に○を付記）</span>		
技術名称	自走式土質改良機《二種混合》	担当部署	環境リサイクル営業部
NETIS登録番号		担当者	山本 順一
社名等	株式会社イマギイレ	電話番号	092-735-0380
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	従来の自走式土質改良機リテラでは、土質性状の異なる二種の建設発生土を高い効率で混合には不向きであった。今般、リテラに装着するだけで高効率二種混合を可能にしたアタッチメントホッパーを開発し、従来捨てていた「不良土」を盛土材料として活用することができるようになった。		
	2. 技術の内容		
	技術の概要: 自走式土質改良機による建設発生土二種混合作業において、リテラ専用の二種混合ATTホッパーを装着し、投入効率を飛躍的に向上させることで成果品の品質向上およびオペレータのストレスを軽減。また、リテラ本体固化材ホッパーを併用することで粉体交じりの三種混合も可能となった。		
	3. 技術の効果		
投入ホッパーがオペレータから確認しやすいように、バックホウを高台に上げての施工とした。0.7m <sup>3</sup> バックホウ1台で2種類の土砂供給をまかなえた。混合品質も良く1000kN/m <sup>2</sup> 以上の強度が確保できた。			
4. 技術の適用範囲			
盛土材改良工事 掘削改良工事			
5. 活用実績			
発注者: 国土交通省 関東地方整備局 北首都国道事務所 様 工事名: R2圏央道花島高架橋下部その1工事 内 容: 砂質土と粘性土を1:2の比率で混合し、目標強度400kN/m <sup>2</sup> 以上の強度に改良 成果品: 盛土材として使用する混合比率 砂質土(A):粘性土(B)=1:2 施工量: 平均350m <sup>3</sup> /日(ほぐし土量)			

6. 写真・図・表

対象土A  
(砂質土)

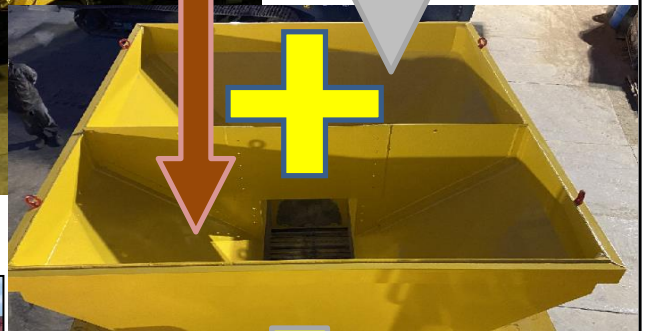


対象土B  
(粘性土)



対象土B

対象土A  
(砂質)



成果品  
混合土

